

## B.2 モニタリング実績

### (1) 活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			モニタリング実績		備考
記号	定義	単位	分類	概要	頻度	実績値	計測対象期間	
ボイラーの導入								
$F_{PJ, fuel-001}$	プロジェクト実施後のボイラーにおける燃料使用量	千Nm3/年	C	各ボイラに設置された管理用メーターで消費量(m3)を把握し、メーターの最大誤差1%を差引、以下の補正係数を乗じて標準状態(Nm3)に換算する。 (補正係数0.967Nm3/m3)	日	318.833	2015年4月1日 ～2016年3月31日	標準状態への補正係数(低圧供給) ゲージ圧: 2kPa 温度: 15°C 補正係数(Nm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> ) = $\frac{101.325[\text{kPa}] + 2[\text{kPa}]}{101.325[\text{kPa}]} \times \frac{273.15[^\circ\text{C}]}{273.15[^\circ\text{C}] + 15[^\circ\text{C}]}$  = <u>0.967 Nm<sup>3</sup>/m<sup>3</sup></u>
ヒートポンプの導入								
$F_{PJ, fuel, heat-002}$	プロジェクト実施後の暖房でのヒートポンプにおける燃料使用量	千Nm3/年	C	暖房期間中に各ヒートポンプに設置された管理用メーターで消費量(m3)を把握し、メーターの最大誤差1%を差引、以下の補正係数を乗じて標準状態(Nm3)に換算する。 (補正係数0.967Nm3/m3)	日	9.737	2015年4月1日 ～2016年3月31日	標準状態への補正係数(低圧供給) ゲージ圧: 2kPa 温度: 15°C 補正係数(Nm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> ) = $\frac{101.325[\text{kPa}] + 2[\text{kPa}]}{101.325[\text{kPa}]} \times \frac{273.15[^\circ\text{C}]}{273.15[^\circ\text{C}] + 15[^\circ\text{C}]}$  = <u>0.967 Nm<sup>3</sup>/m<sup>3</sup></u>
$F_{PJ, fuel, cool-002}$	プロジェクト実施後の冷房でのヒートポンプにおける燃料使用量	千Nm3/年	C	冷房期間中に各ヒートポンプに設置された管理用メーターでガス消費量(m3)を把握し、メーターの最大誤差1%を差引、以下の補正係数を乗じて標準状態(Nm3)に換算する。 (補正係数:0.967Nm3/m3)	日	72.775	2015年4月1日 ～2016年3月31日	標準状態への補正係数(低圧供給) ゲージ圧: 2kPa 温度: 15°C 補正係数(Nm <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> ) = $\frac{101.325[\text{kPa}] + 2[\text{kPa}]}{101.325[\text{kPa}]} \times \frac{273.15[^\circ\text{C}]}{273.15[^\circ\text{C}] + 15[^\circ\text{C}]}$  = <u>0.967 Nm<sup>3</sup>/m<sup>3</sup></u>

コージェネレーションの導入

<p><math>F_{PJ, fuel-007}</math></p>	<p>プロジェクト実施後のコージェネレーションにおける燃料使用量</p>	<p>千Nm<sup>3</sup>/年</p>	<p>B</p>	<p>豊岡ガスの取引メーターでガス消費量(m<sup>3</sup>)を把握し、以下の補正係数を乗じて標準状態(Nm<sup>3</sup>)に換算する。尚、計測値データはパルスで遠隔監視システムに飛ばされる。 (補正係数:0.967Nm<sup>3</sup>/m<sup>3</sup>)</p>	<p>日</p>	<p>119.107</p>	<p>2015年4月1日 ～2016年3月31日</p>	<p>標準状態への補正係数(低圧供給) ゲージ圧：2kPa 温度：15°C 補正係数(Nm<sup>3</sup>/m<sup>3</sup>) = <math>\frac{101.325[\text{kPa}] + 2[\text{kPa}]}{101.325[\text{kPa}]} \times \frac{273.15[^\circ\text{C}]}{273.15[^\circ\text{C}] + 15[^\circ\text{C}]}</math>  = <u>0.967Nm<sup>3</sup>/m<sup>3</sup></u></p>
<p><math>EL_{PJ-007}</math></p>	<p>プロジェクト実施後のコージェネレーションによる発電電力量</p>	<p>kWh/年</p>	<p>C</p>	<p>コージェネレーション遠隔管理システムで発電電力量を把握し、メーターの最大誤差4.5%を差引いて採用する。</p>	<p>日</p>	<p>429,280</p>	<p>2015年4月1日 ～2016年3月31日</p>	
<p><math>Q_{PJ, heat-007}</math></p>	<p>プロジェクト実施後のコージェネレーションによる生成熱量</p>	<p>GJ/年</p>	<p>C</p>	<p>コージェネレーション遠隔管理システムで熱回収量を把握し、メーターの最大誤差4.5%を差引いて採用する。</p>	<p>日</p>	<p>1,891.541</p>	<p>2015年4月1日 ～2016年3月31日</p>	

## (2) 係数 (単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等)

モニタリング項目			モニタリング方法			モニタリング実績		備考
記号	定義	単位	分類	概要	頻度	実績値	計測対象期間	
全方法論共通								
$HV_{PJ,fuel}$	プロジェクト実施後に使用する燃料(都市ガス)の単位発熱量	GJ/千Nm3	II	供給会社が公表する値を使用する(豊岡エネルギー株式会社)	年	45.0		供給会社公表値
$CEF_{PJ,fuel}$	プロジェクト実施後に使用する燃料(都市ガス)の単位発熱量当たりCO2排出係数	tCO2/GJ	III	デフォルト値を使用する。(供給会社が係数を公表していないため)	年	0.0517		デフォルト値
$CEF_{BL,fuel}$	ベースライン設備で使用する燃料(A重油)の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	III	デフォルト値を使用する。	年	0.0708		デフォルト値
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	III	デフォルト値を使用する。	年	0.000569		デフォルト値(限界電源)
ボイラーの導入								
$\varepsilon_{PJ-001}$	プロジェクト実施後のボイラーのエネルギー消費効率	%	II	カタログ値の加重平均値を使用する。	プロジェクト開始時	88.0		カタログ値(高位)
$\varepsilon_{BL-001}$	ベースラインのボイラーのエネルギー消費効率	%	II	カタログ値の加重平均値を使用する。	プロジェクト開始時	83.4		カタログ値(高位)

ヒートポンプの導入								
$\varepsilon_{PJ,heat-002}$	プロジェクト実施後のヒートポンプの暖房のエネルギー消費効率	-	II	カタログ値の加重平均値を使用する。	プロジェクト開始時	0.87		カタログ値(高位)
$\varepsilon_{PJ,cool-002}$	プロジェクト実施後のヒートポンプの冷房のエネルギー消費効率	-	II	カタログ値の加重平均値を使用する。	プロジェクト開始時	1.29		カタログ値(高位)
$\varepsilon_{BL,heat-002}$	ベースラインのヒートポンプのエネルギー暖房の消費効率	-	II	カタログ値の加重平均値を使用する。	プロジェクト開始時	0.86		カタログ値(高位)
$\varepsilon_{BL,cool-002}$	ベースラインのヒートポンプのエネルギー冷房の消費効率	-	II	カタログ値の加重平均値を使用する。	プロジェクト開始時	1.04		カタログ値(高位)
コージェネレーションの導入								
$\varepsilon_{BL-007}$	ベースラインのボイラーのエネルギー消費効率	%	II	カタログ値の加重平均値を使用する。	プロジェクト開始時	83.4		カタログ値(高位)

### B.3 排出削減量の算定

#### ボイラーの導入 (EN-S-001)

##### B.3.1 排出削減量

$$ER_{.001} = EM_{BL-001} - EM_{PJ-001} \quad (式1)$$

記号	定義	単位	数値
$ER_{.001}$	排出削減量	tCO2/年	330.0
$EM_{BL-001}$	ベースライン排出量	tCO2/年	1071.8
$EM_{PJ-001}$	プロジェクト実施後排出量	tCO2/年	741.8

##### B.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

###### (1) ベースラインの付随的な排出活動

(考え方) 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計	0.0	

###### (2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

(考え方) 本プロジェクトで適用する方法論では、プロジェクト実施後の付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%)	モニタリング・算定方法
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計	0.0	0.0	

### B.3.3 プロジェクト実施後排出量

(1) 主要排出活動

(考え方) 方法論1) の「プロジェクト実施後のボイラーにおける燃料使用量から算定」する。

$$EM_{PJ-001} = F_{PJ,fuel-001} \times HV_{PJ,fuel} \times CEF_{PJ,fuel} \quad (式2)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ-001}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	741.8
$F_{PJ,fuel-001}$	プロジェクト実施後のボイラーにおける燃料使用量	千Nm3/年	318.833
$HV_{PJ,fuel}$	プロジェクト実施後のボイラーで使用する燃料の単位発熱量	GJ/千Nm3	45.0
$CEF_{PJ,fuel}$	プロジェクト実施後のボイラーで使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0517

(2) 付随的な排出活動

記号	定義	単位	想定値

### B.3.4 ベースライン排出量の考え方

(1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後のボイラーによる生成熱量を、プロジェクト実施後のボイラーからではなく、ベースラインのボイラーから得る場合に想定されるCO2排出量とする。

(2) ベースライン活動量の算定式

$$Q_{BL,heat-001} = Q_{PJ,heat-001} = F_{PJ,fuel-001} \times HV_{PJ,fuel} \times \frac{\epsilon_{PJ-001}}{100} \quad (\text{式6})$$

記号	定義	単位	想定値
$Q_{BL,heat-001}$	ベースラインのボイラーによる生成熱量	GJ/年	12,625.8
$Q_{PJ,heat-001}$	プロジェクト実施後のボイラーによる生成熱量	GJ/年	12,625.8
$F_{PJ,fuel-001}$	プロジェクト実施後のボイラーにおける燃料使用量	千Nm3/年	318.833
$HV_{PJ,fuel}$	プロジェクト実施後のボイラーで使用する燃料の単位発熱量	GJ/千Nm3	45.0
$\epsilon_{PJ-001}$	プロジェクト実施後のボイラーのエネルギー消費効率	%	88.0

### B.3.5 ベースライン排出量

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL-001} = Q_{BL,heat-001} \times \frac{100}{\epsilon_{BL-001}} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式7})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{BL-001}$	ベースラインの主要排出量	tCO2/年	1,071.8
$Q_{BL,heat-001}$	ベースラインのボイラーによる生成熱量	GJ/年	12,625.8
$\epsilon_{BL-001}$	ベースラインのボイラーのエネルギー消費効率	%	83.4
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインのボイラーで使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0708

(2) 付随的な排出活動

記号	定義	単位	想定値

## ヒートポンプの導入(EN-S-002)

### B.3.1 排出削減量

$$ER_{.002} = EM_{BL-002} - EM_{PJ-002} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	数値
$ER_{.002}$	排出削減量	tCO2/年	127.0
$EM_{BL-002}$	ベースライン排出量	tCO2/年	319.0
$EM_{PJ-002}$	プロジェクト実施後排出量	tCO2/年	192.0

### B.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

#### (1) ベースラインの付随的な排出活動

(考え方) 本プロジェクトでは、温室効果のある冷媒を使用していないため、方法論で定める付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計	0.0	

#### (2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

(考え方) 本プロジェクトでは、温室効果のある冷媒を使用していない。また、生成した温水を再加熱することはない。さらに、廃棄に伴う代替フロンからの排出もないことから、方法論で定める付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%)	モニタリング・算定方法
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計	0.0	0.0	



### B.3.3 プロジェクト実施後排出量

#### (1) 主要排出活動

(考え方) 方法論a-1-2)の「プロジェクト実施後のヒートポンプが燃料で稼働する場合」を採用する。

$$EM_{PJ-002} = EM_{PJ,heat-002} + EM_{PJ,cool-002} \quad (式2)$$

$$EM_{PJ,heat-002} = F_{PJ,fuel,heat-002} \times HV_{PJ,fuel} \times CEF_{PJ,fuel} \quad (式4)$$

$$EM_{PJ,cool-002} = F_{PJ,fuel,cool-002} \times HV_{PJ,fuel} \times CEF_{PJ,fuel} \quad (式4)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ-002}$	プロジェクト実施後の排出量	tCO2/年	192.0
$EM_{PJ,heat-002}$	プロジェクト実施後の暖房による排出量	tCO2/年	22.7
$EM_{PJ,cool-002}$	プロジェクト実施後の冷房による排出量	tCO2/年	169.3
$F_{PJ,fuel,heat-002}$	プロジェクト実施後の暖房でのヒートポンプにおける燃料使用量	千Nm3/年	9.737
$F_{PJ,fuel,cool-002}$	プロジェクト実施後の冷房でのヒートポンプにおける燃料使用量	千Nm3/年	72.775
$HV_{PJ,fuel}$	プロジェクト実施後のヒートポンプで使用する燃料の単位発熱量	GJ/千Nm3	45.0
$CEF_{PJ,fuel}$	プロジェクト実施後のヒートポンプで使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0517

#### (2) 付随的な排出活動

記号	定義	単位	想定値

### B.3.4 ベースライン排出量の考え方

#### (1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後のヒートポンプによる生成熱量を、プロジェクト実施後のヒートポンプからではなく、ベースラインのヒートポンプから得る場合に想定されるCO2排出量とする。

#### (2) ベースライン活動量の算定式

$$Q_{BL,heat-002} = Q_{PJ,heat-002} = F_{PJ,fuel,heat-002} \times HV_{PJ,fuel} \times \varepsilon_{PJ,heat-002} \quad (\text{式14})$$

$$Q_{BL,cool-002} = Q_{PJ,cool-002} = F_{PJ,fuel,cool-002} \times HV_{PJ,fuel} \times \varepsilon_{PJ,cool-002} \quad (\text{式14})$$

記号	定義	単位	想定値
$Q_{BL,heat-002}$	ベースラインの熱源設備における暖房の生成熱量	GJ/年	381.2
$Q_{BL,cool-002}$	ベースラインの熱源設備における冷房の生成熱量	GJ/年	4,224.6
$Q_{PJ,heat-002}$	プロジェクト実施後のヒートポンプにおける暖房の生成熱量	GJ/年	381.2
$Q_{PJ,cool-002}$	プロジェクト実施後のヒートポンプにおける冷房の生成熱量	GJ/年	4,224.6
$F_{PJ,fuel,heat-002}$	プロジェクト実施後のヒートポンプにおける暖房の燃料使用量	千Nm3/年	9.737
$F_{PJ,fuel,cool-002}$	プロジェクト実施後のヒートポンプにおける冷房の燃料使用量	千Nm3/年	72.775
$HV_{PJ,fuel}$	プロジェクト実施後のヒートポンプで使用する燃料の単位発熱量	GJ/千Nm3	45.0
$\varepsilon_{PJ,heat-002}$	プロジェクト実施後のヒートポンプの暖房のエネルギー消費効率	-	0.87
$\varepsilon_{PJ,cool-002}$	プロジェクト実施後のヒートポンプの冷房のエネルギー消費効率	-	1.29

### B.3.5 ベースライン排出量

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL-002} = EM_{BL,heat-002} + EM_{BL,cool-002} \quad (\text{式15})$$

$$EM_{BL,heat-002} = Q_{BL,heat-002} \div \varepsilon_{BL,heat-002} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式17})$$

$$EM_{BL,cool-002} = Q_{BL,cool-002} \div \varepsilon_{BL,cool-002} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式17})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{BL-002}$	ベースラインの排出量	tCO2/年	319.0
$EM_{BL,heat-002}$	暖房分のベースラインの排出量	tCO2/年	31.4
$EM_{BL,cool-002}$	冷房分のベースラインの排出量	tCO2/年	287.6
$Q_{BL,heat-002}$	ベースラインの熱源設備における暖房の生成熱量	GJ/年	381.2
$Q_{BL,cool-002}$	ベースラインの熱源設備における冷房の生成熱量	GJ/年	4,224.6
$\varepsilon_{BL,heat-002}$	ベースラインの熱源設備の暖房のエネルギー消費効率	-	0.86
$\varepsilon_{BL,cool-002}$	ベースラインの熱源設備の冷房のエネルギー消費効率	-	1.04
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの熱源設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0708

(2) 付随的な排出活動

記号	定義	単位	想定値

## コージェネレーションの導入(EN-S-007)

### B.3.1 排出削減量

$$ER_{-007} = EM_{BL-007} - EM_{PJ-007} \quad (式1)$$

記号	定義	単位	数値
$ER_{-007}$	排出削減量	tCO2/年	127.0
$EM_{BL-007}$	ベースライン排出量	tCO2/年	404.9
$EM_{PJ-007}$	プロジェクト実施後排出量	tCO2/年	277.1

### B.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

#### (1) ベースラインの付随的な排出活動

(考え方) 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計	0.0	

#### (2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

(考え方) 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%)	モニタリング・算定方法
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計	0.0	0.0	

### B.3.3 プロジェクト実施後排出量

(1) 主要排出活動

(考え方) 方法論1) の「プロジェクト実施後のコージェネレーションにおける燃料使用量から算定する場合」を採用する。

$$EM_{PJ-007} = F_{PJ,fuel-007} \times HV_{PJ,fuel} \times CEF_{PJ,fuel} \quad (式2)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ-007}$	プロジェクト実施後の排出量	tCO2/年	277.1
$F_{PJ,fuel-007}$	プロジェクト実施後のコージェネレーションにおける燃料使用量	千Nm3/年	119.107
$HV_{PJ,fuel}$	プロジェクト実施後のコージェネレーションで使用する燃料の単位発熱量	GJ/千Nm3	45.0
$CEF_{PJ,fuel}$	プロジェクト実施後のコージェネレーションで使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0517

(2) 付随的な排出活動

記号	定義	単位	想定値

### B.3.4 ベースライン排出量の考え方

#### (1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後のコージェネレーションによる発電電力量と生成熱量を、コージェネレーションからではなく、ベースラインの系統電力及びボイラーから得る場合に想定されるCO2排出量とする。

#### (2) ベースライン活動量の算定式

$$EL_{BL-007}=EL_{PJ-007} \quad (式4)$$

$$Q_{BL,heat-007}=Q_{PJ,heat-007} \quad (式5)$$

記号	定義	単位	想定値
$EL_{BL-007}$	ベースラインの系統電力の使用量	kWh/年	429,280.0
$EL_{PJ-007}$	プロジェクト実施後のコージェネレーションによる発電電力量	kWh/年	429,280.0
$Q_{BL,heat-007}$	ベースラインのボイラーによる生成熱量	GJ/年	1,891.5
$Q_{PJ,heat-007}$	プロジェクト実施後のコージェネレーションによる生成熱量	GJ/年	1,891.5

### B.3.5 ベースライン排出量

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL-007} = EM_{BL,electricity-007} + EM_{BL,heat-007} \quad (\text{式9})$$

$$EM_{BL,electricity-007} = EL_{BL-007} \times CEF_{electricity,t} \quad (\text{式10})$$

$$EM_{BL,heat-007} = Q_{BL,heat-007} \times \frac{100}{\varepsilon_{BL-007}} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式11})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{BL-007}$	ベースラインの排出量	tCO2/年	404.9
$EM_{BL,electricity-007}$	電力起源のベースライン排出量	tCO2/年	244.3
$EM_{BL,heat-007}$	熱起源のベースライン排出量	tCO2/年	160.6
$EL_{BL-007}$	ベースラインの系統電力の使用量	kWh/年	429,280
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	0.000569
$Q_{BL,heat-007}$	ベースラインのボイラーによる生成熱量	GJ/年	1,891.54
$\varepsilon_{BL-007}$	ベースラインのボイラーのエネルギー消費効率	%	83.4
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインのボイラーで使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0708

(2) 付随的な排出活動

記号	定義	単位	想定値

## 合計

### B.3.1 排出削減量

$$ER=ER_{.001}+ER_{.002}+ER_{.007}$$

記号	定義	単位	数値
<i>ER</i>	合計排出削減量	tCO2/年	584.0
<i>ER</i> <sub>.001</sub>	ボイラー導入の排出削減量	tCO2/年	330.0
<i>ER</i> <sub>.002</sub>	ヒートポンプ導入の排出削減量	tCO2/年	127.0
<i>ER</i> <sub>.007</sub>	コージェネレーション導入の排出削減量	tCO2/年	127.0



## B.4 省エネルギー量の算定

燃料種別 (※1)	認証を申請する期間 (2015年4月1日 ~ 2016年3月31日)							
	単位	エネルギー使用量		熱量換算 (GJ)※2		原油換算 (Kl)※2		
		ベースライン	プロジェクト 実施後	ベースライン	プロジェクト 実施後	ベースライン (①)	プロジェクト 実施後 (②)	ベースライン -プロジェクト
A重油	k l	563.3		21,912.4		565.3		565.3
灯油	k l							0.0
LPG	t							0
天然ガス	千Nm <sup>3</sup>							0
LNG	t							0
都市ガス	千Nm <sup>3</sup>		520.5		23,420.4		604.2	-604.2
購入電力	kWh	429,280		4,280		110.4		110.4
						合計		71.5

※1表に記載の燃料以外を用いる場合には、行を追加して記載すること。